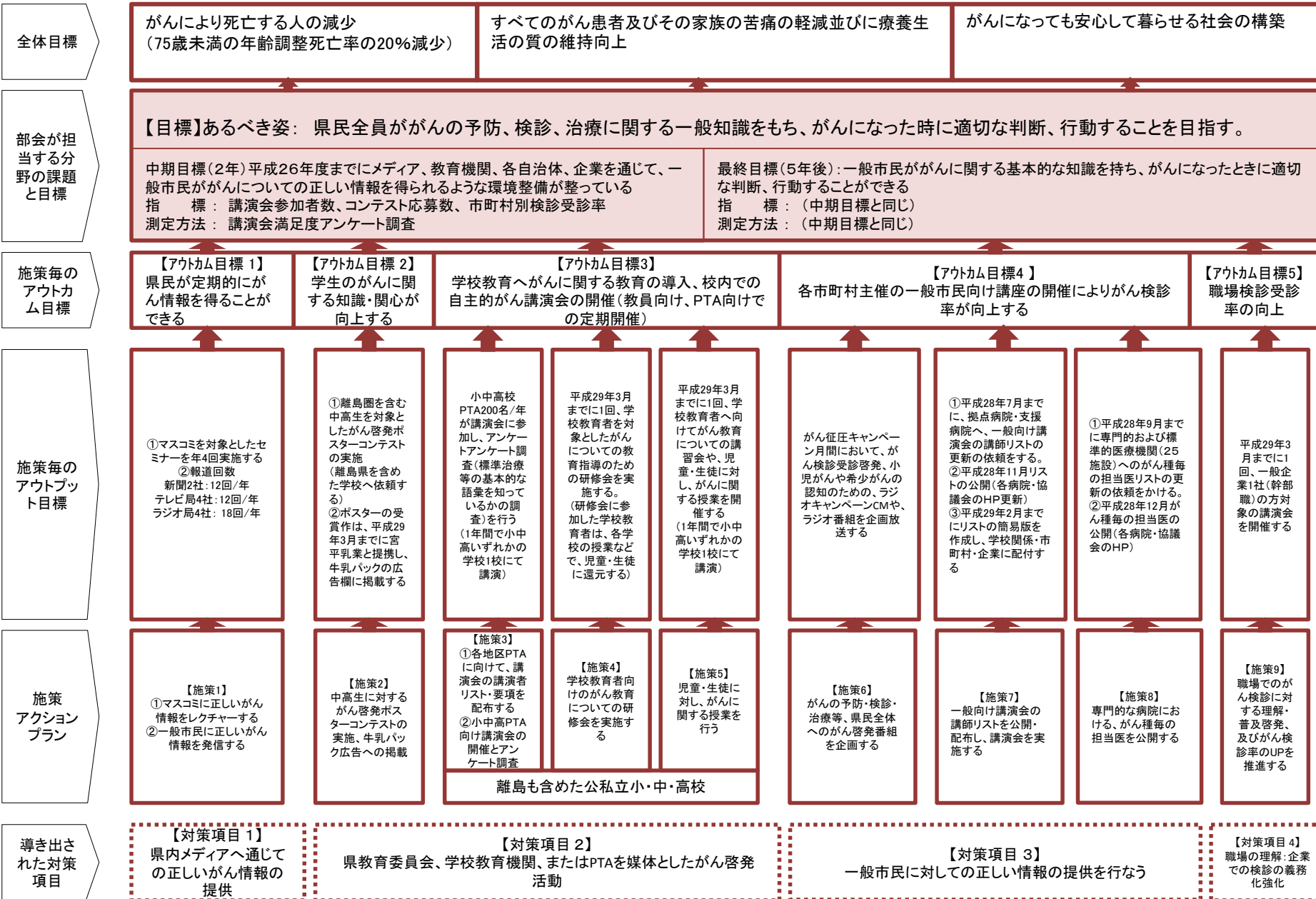


普及啓発部会



離島も含めた公私立小・中・高校

がん検診啓発ラジオ放送企画報告書

県民へのがん検診啓発活動として、ROK ラジオ沖縄と沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会がタイアップし、以下の通り実施したので報告する。

➤ がん征圧月間特別企画：ラジオコマーシャルについて

9 月はがん征圧月間であることから、ラジオ沖縄では、9 月 1 日～9 月 30 日の 1 ヶ月間、がん検診の受診を県民へ啓発するラジオコマーシャルを放送した。

協 賛：ROK ラジオ沖縄

➤ がん検診啓発特別ラジオ番組について

制 作：ROK ラジオ沖縄

番組名：「チャットステーションL」

テーマ：「受けよう！うちな～がん検診」

放送日：平成 28 年 9 月 29 日（木）午後 2 時～4 時（120 分）

出演者：パーソナリティー 玉城 美香

ゲスト：國仲 弘一（琉球大学医学部附属病院 第一外科）

山川 宗貞（沖縄県保健医療部 健康長寿課長）

大久保 礼子（琉球大学医学部附属病院がんセンター MSW）

聴取者メール応募数：約 200 通

内 容：聴取者から寄せられる「がん検診」についてのエピソードや、「がん」について気になることをベースに、「がん検診」を受けることの重要性、乳がんのこと、拠点病院のがん相談支援センターの PR 等、専門のゲストを招き解説を行なった。

平成 23 年度から 6 回目の放送となり、本放送を聞くようになってから、「がん検診」に毎年行くようにしているとのリスナーさんからの声もいただいている。

乳がんについて

（琉球大学医学部附属病院 第一外科 國仲 弘一 先生）

がんは検診などで、早期発見・早期治療で完治する可能性が高くなる。そうすると体へのダメージや医療費の軽減にもなることから、「がん検診」の必要性、早期発見、早期治療の大切さが伝えられた。

北斗晶さんや小林麻央さんの報道もあり乳がん検診への理解も広まってきたが、乳がん検診は、触診・マンモグラフィーがあり、授乳中の方や若い方は乳腺が発達しておりマンモグラフィー検査で見分けにくく、副乳のある方もマンモグラフィーでは検査しにくいので、人間ドックのエコー検査で詳しく見る検査を受けるとよい。2 年おきなど、定期的に検診を受けることをお勧めする。乳がんの一部は遺伝することもあるが、多くのがんは遺伝しないと言える、それよりも、生活習慣を見直すことが大事である。

乳がんは、胸の大きい人がなりやすいということはないが、女性ホルモンの影響を受け女性ホルモンは脂肪

にも含まれるので、体格の良いふくよかな方は脂肪が多く痩せた方よりは、乳がんになりやすいと言える。

沖縄県民のがんの罹患率は、全国的に見ると低めではある。低めではあるが、決して大丈夫というような罹患率ではないので、出来るだけ早くがん検診を受けてきちんと見つけてほしい。早期で見つかれば、職場復帰、社会復帰も十分に可能である。早期発見のためには、まず検診を受けること、体重を増やし過ぎない、生活習慣を整えることが大事である。

抗がん剤は、がんの種類によって異なり、効果も副作用も患者さんによって出方が異なるのが現状である。治療のその時々で、優先させた方がよい治療など、主治医の先生ともよく相談してほしい。

がんは決して治らない病気ではない、早く見つけさえすれば治る可能性が大きいので、そのためにもがん検診を受けてほしい。また、気になる症状があるときには、一人で悩まずに遠慮なく病院に来て相談してほしい。

沖縄県のがんの現状、がん検診受診率について

(沖縄県保健医療部 健康長寿課長 山川宗貞氏)

沖縄県のがんの現状について、広く県民への周知と県としての取り組みや、健康長寿の観点からの「がん検診」の必要性を強く訴えておられた。「2人に1人ががんになる」と言われており、半分の確率でがんになるので、「自分はがんにならない」とは思わないで、がん検診で早期に見つけることができるので、早めにごがん検診を受けてほしい。

がん検診の無料クーポンやハガキについては、各市町村に問合せをして、是非、がん検診を受けて頂きたい。

胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん検診は40歳から、子宮がん検診は20歳から市町村で提供されているので、是非、この機会を活用してがん検診を受けていただきたい。

がん相談支援センターの役割

(琉球大学医学部附属病院がんセンター MSW 大久保 礼子 氏)

がんかもしれない、がんと診断されたときは、患者さんやご家族も色々な心配事や不安が出てくる。その時には、「がん相談支援センター」という相談窓口があることを知っていただきたい。

「がん相談支援センター」は、琉球大学医学部附属病院・沖縄県立中部病院・那覇市立病院・沖縄県立宮古病院・沖縄県立八重山病院の5つのがん診療連携拠点病院設置されており、がん診療連携支援病院として、北部地区医師会病院にも設置されている。これらの病院の中に、がん相談支援センターがあり、医療ソーシャルワーカー、看護師などががん専門の相談員として研修を受けたスタッフが、信頼できる情報に基づいて、がんの治療について、療養生活全般の質問及び相談をお受けしている。がんの治療が始まると、高額な療養費となることも多いが、様々な給付制度なども当センターにご相談いただきたい。

ご友人や身近な方の入院などで、自分に何が出来るか悩んでいる方には、まず、顔を見せてあげて、患者さんのそばにいる、何も言わなくてもただ寄り添ってあげてほしい。

患者さんだけでなく、そのご家族やご親戚、ご友人など患者さんを大切に思う方々へ、がん相談支援センターにおいでにならなくても、お電話でも、他の病院に通っていても本当に気軽に相談してほしい。相談は無料で、専門家と連携をはかりながら対応でき、相談内容が主治医に漏れたりすることもないので、安心して相談していただきたい。

また、がんについて知りたい時や勉強したい時、「がんになったら手に取るガイド」が書店で販売されており、地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック 2016版」も、拠点病院、がん専門病院・その他の

医療機関・各市町村役場・学校・薬局・図書館・公共施設に置いてあるので、上手に活用してほしい。



平成 28 年 11 月 18 日
沖縄県がん診療連携協議会
普及啓発部会

平成 28 年度 南風原町 P T A 連絡協議会役員研修

概要

開催日時 : 平成 28 年 10 月 8 日 (土) 14:00 ~ 16:45

テーマ : 「がんのことをもっと知ろう」～自らの健康に関心を！～

講師 : 増田 昌人
(琉球大学医学部附属病院がんセンター長・診療教授)

主催 : 南風原町 P T A 連絡協議会
後援 : 南風原町教育委員会

場所 : 南風原町立中央公民館 (南風原町)

参加者数 : 24 人

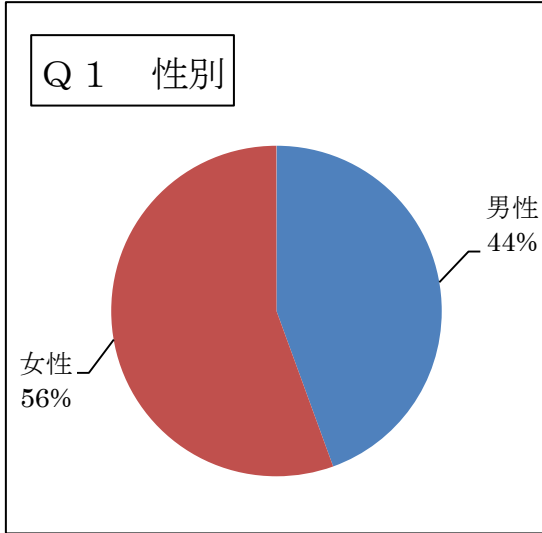
講演の様子



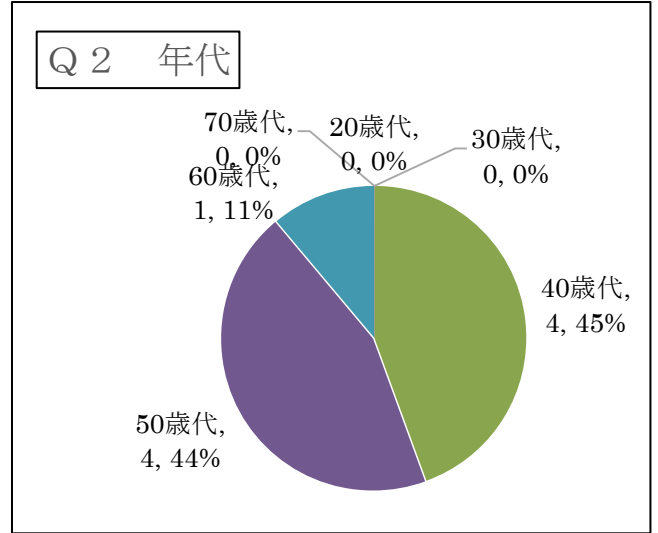
講演のアンケート結果 (回答者 9名)

I. 受講者ご自身について

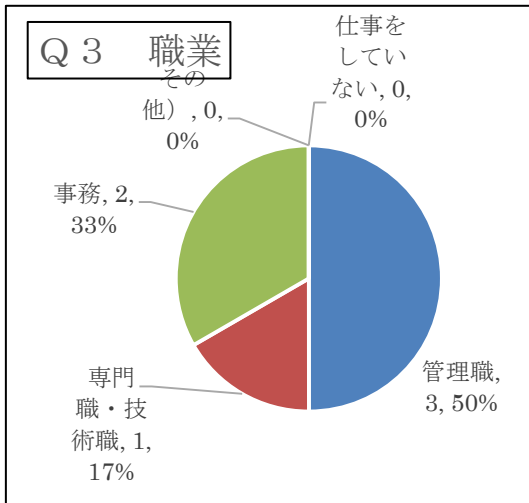
Q 1. 性別について



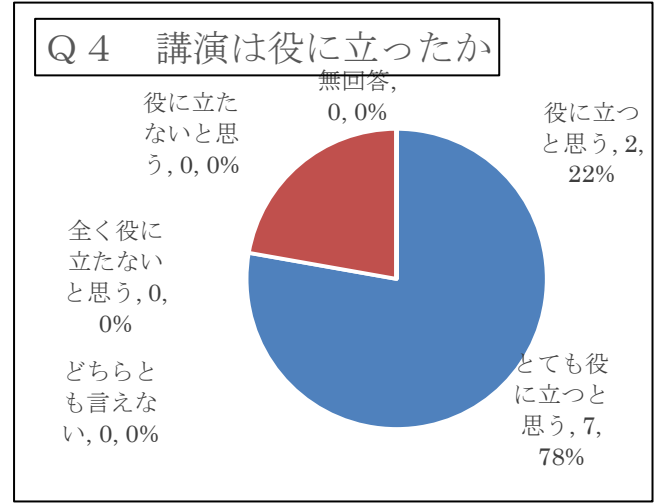
Q 2. 年代について



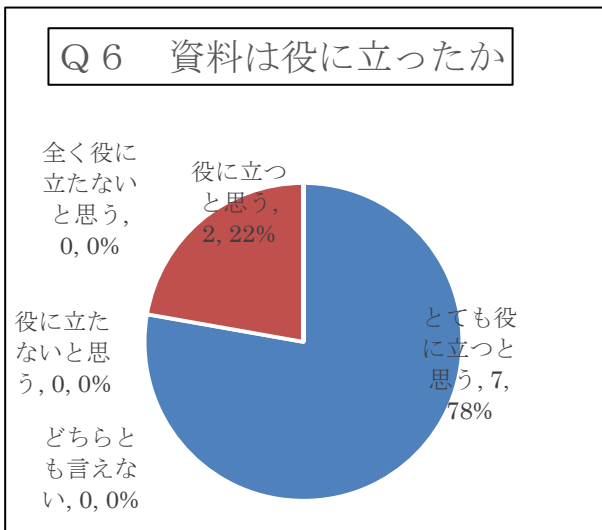
Q 3. 職業について



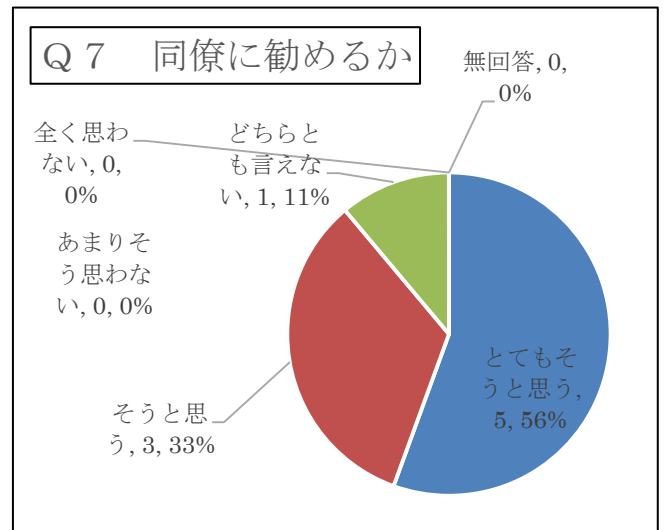
Q 4. 講演について



Q 6. 資料は役に立ったか?



Q. 同僚に勧めるか



Q 8 講演に関するご意見・ご感想

- ・本日の講演で、よりいっそう「がん」について身近に感じました。また、がんは遺伝性かと思っていたのですが、そうでないことを知り、予防に心がけるようにしたいと思いません。
- ・専門的な講演で大変勉強になりました。ドクターの講演などは、なかなか聞けないのでとてもよかったです。
- ・特に、がん当事者、家族と生徒らにフォーカスしてお話を伺ったのは、初めての事でしたので、参考になりました。
- ・気休めでない、医療現場の本音が聞けてよかった
- ・PTA 仲間をがんで亡くしているのので、今後、子どもたちとどう対応しサポートしていけばいいのか、考えるいいきっかけになりました。
- ・講演時間をもう少し持てればよいと感じた。時間制限もあり、資料の説明がないところがあった（後半）。
- ・がんが身近な事、がんの事を学べる事、支援がある事、たくさんの事を知る事ができて、本当に良かったです。ありがとうございました。

Q 9 今後、取り上げてほしいテーマ

- ・脳疾患等や、こころ病等の講演も聞いてみたいと思いました。
- ・世界の中のウチナンチュの生き方 ・英語のコミュニケーションの大切さ ・観光立県の要素について
- ・看取りについて、とか

所感

町内の学校の管理者や一般教職員や、教育委員会、PTA役員の方々の研修会で、実体験にもとづいた質問があった。

- ・中学校のPTAでもあった教え子の死について
- ・すい臓がんが見つかりにくいのはなぜか？
- ・がんを患っている児童・生徒への声かけについて
- ・がんを患っている児童・生徒のいるクラスの子への伝え方について
- ・学校と医療機関との連携について

学校を取り巻く現場からの声を聞き、がん診療や相談支援に関して、がんに関する基本的な情報やサポートへの理解など、部会としても、さらにがんについての普及啓発や情報提供の活動を進めていく必要があると感じた。

平成 28 年 11 月 18 日
沖縄県がん診療連携協議会
普及啓発部会

沖縄市立宮里中学校「公開研究授業（保健体育・がん教育）」

概要

開催日時	： 平成 28 年 11 月 16 日（水） 14:00 ～ 14:50
単元	： 健康な生活と疾病の予防 ①生活行動・生活習慣と健康（調和のとれた生活と生活習慣病） ②喫煙、飲酒、薬物乱用と健康
授業者	： 花木 瑠実 （沖縄市立宮里中学校 保健体育科）
主催	： 中頭教育事務所 沖縄市立宮里中学校
協力	： 沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会 琉球大学医学部付属病院 がんセンター
場所	： 沖縄市立宮里中学校 図書室（沖縄市）
参加者数	： 沖縄市立宮里中学校 3 年 5 組 6 組女子生徒 43 人 教育庁保健体育課、中頭地区中学校保健体育科担当教諭 40 人 沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会 4 人

【授業のねらい】

○がんを自分自身の身近な問題として捉え、自分ができることを考え行動する。

【重点目標】

- ①がん検診・特定健診を受け、早期発見・早期治療
- ②肥満率の減少・征圧週刊による死亡率の減少
- ③生活習慣病のリスクを高める飲酒者の減少

【授業の様子】



【図書館入り口：掲示物】

- がんカルタ
- がんちゃんの冒険(DVD)
- がん啓発ポスター
- がんサポブック
- がん冊子
- がんのことをもっと知ろう



【導入】

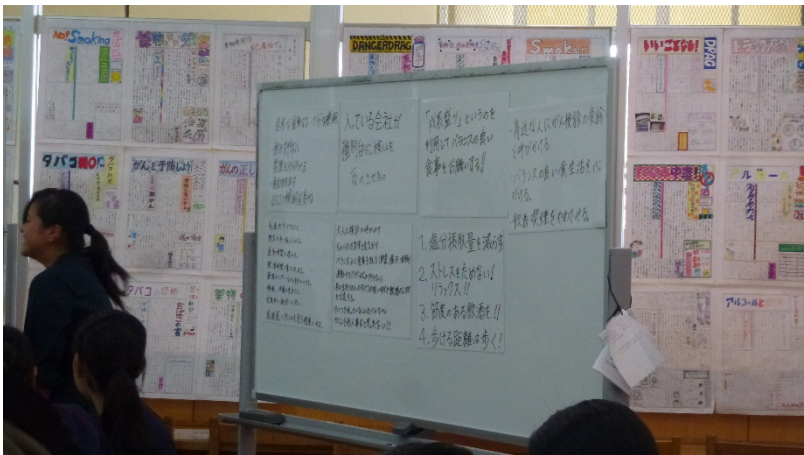
○がんちゃんの冒険 DVD、
「がんカルタ」を思い出す。

○めあての確認



【展開】

○がんと沖縄県の現状が
関連づいていることに気付
かせる。



○ホワイトボードに書か
せる



○各グループの発表を聞く



【まとめ】

- 小林麻央さんのブログの紹介
- 自分の身近な人を思い浮かべながら、メッセージを書く



- 書いたメッセージを発表し、自分の行動変容に役立てる

【4月～11月までの学習活動】

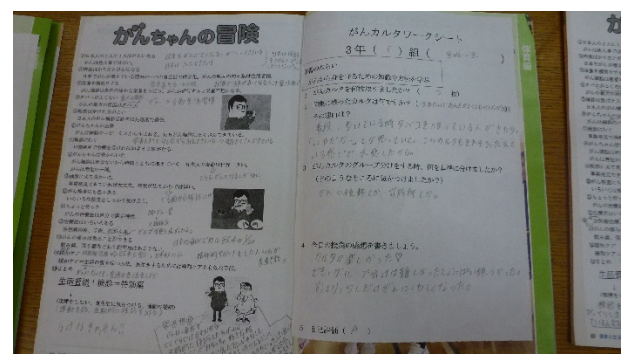
【調べ学習と新聞作成】

(がん・喫煙と健康・飲酒と健康・薬物乱用と健康)



【がんちゃんの冒険(DVD)鑑賞とがんカルタワークシート記入】

(がんから身を守るための知識や方法を学ぶ)



所感

1 学期からの長期に渡り練り上げた授業の構成や指導案、生徒さんからの発表もとても活発な素晴らしい授業であった。教師(花木先生)と生徒さん達の信頼関係を強く感じることができた。

「日本における児童生徒のがんの原因についての認識と情報源」報告書によると、高校生におけるがんの情報源では、「テレビ(約 95%)」が圧倒的に多かったが、2 番目に多かったのが「学校での保健の学習(男子 62.0%、女子 64.3%)」であり(注1)、「がん教育」の必要性や、その期待や貢献の可能性も高いことが示唆されている。

現行の保健の授業でも、これだけの結果が得られているので、保健の授業で習った内容をがんの情報源の基盤とし、普及啓発部会の目標でもある県民のあるべき姿として、「県民全員ががんの予防、検診、治療に関する一般知識をもち、がんになった時に適切な判断、行動することを目指す」ために、「がん教育」の推進に期待し、普及啓発活動を進めていく必要がある。

(注1)物部博文、植田誠治、杉崎弘周ほか「日本における児童生徒のがんの原因についての認識と情報源」学校保健研究 56(4). 2014. 262・270